



愛郷無限

土屋館
どやだて
通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年08月14日号 NO.526

写真提供：大仙市

Subject： いよいよ花火ウィーク、そして大曲の花火へ

大曲が一年で一番熱い一週間。8月16日(日)から花火ウィーク2015がスタートします。様々な団体、組織の皆さんが協力し合い、準備を進めてきました。花火通り商店街でも全体運営に協力する他、花火ときめきマップの制作・配布や、期間中に【親子でdeまちゼミ】特別編の開催等々。また先日はJR大曲駅の大階段に毎年恒例となったてるてる坊主ツリーを飾ってきました。

まずは初日、8月16日(日)に【夏まつり大曲2015】が開催されます。毎年ギリギリと行政からの支援予算を縮小されているのに、規模と内容はどんどん大きく・濃くなっているのは、ひとえに運営に参加いただいている各団体皆さんの知恵と努力と協力の賜です。本当におかげ様であり、ありがたい限りです。花火ウィークのメイン会場(丸子橋たもとの特設会場)は、前夜祭の21日(金)と、花火当日の22日(土)の二日間の開催。

新しい動きでは、大曲史談会の事務局長・播摩さんが大曲駅前の歴史散策マップを自主制作し、駅前周辺の歴史的背景を持つ14箇所にその由来を説明した看板を立ててくれたそうです。さらに花火翌日の8月23日には、史談会メンバーと歩く大曲の歴史ハイクを開催。花火観覧者のみならず、地元の人にこそ見て・参加して欲しいと思います。残念ながらこの看板は花火終了後に撤去されるらしい。街の歴史と成り立ちを知れるこういうモノこそ常設をすべきです。市役所や観光物産協会には今後の検討を切に希望します。

またコミュニティFMラジオ局が開局したことで、当日の各種情報が入手しやすくなることも嬉しく、とても役立つことです。フクダモータースの福田社長が自腹で制作し、昨年までは花火ウィーク会場に飾っていた【巨大な花火玉モニュメント】。福田社長が大仙市へ寄贈して、この度、大曲駅前に設置されました。記念撮影のメッカになることでしょう。

話変わって、ここ何年か頭が痛いことは、大曲の花火の運営スタッフ(特に導線や栈敷会場の現場管理)が圧倒的に人数が足りないこと。既に公民共に結構な人数が運営には携わっていますが、全然足りないのが現場の実感。だって70万人が相手ですからね。

地元のヒトは【花火は見るモノから、見せるモノへ】という意識に切り変えて欲しい。花火に来てくれた来場者をもてなす・愉しんでもらうことにちょっとずつ参加いただければ、来場者満足度も上がり、現場の安心安全度も高まるからです。花火の素晴らしさを語ることは大事です。でも、見て語るヒトばかりでは、大会の存続は成り立ちません。全国からの来場者に愉しんでいただくために汗をかき、骨を折る地元の一般ボランティアを増やすことがこの街の喫近の課題です。【大曲の花火は私達が現場で支えていく】という意識を持つことは、この街に生まれ育ったこと自体に矜持を持つことへと必ずや繋がるはずです。

来期に向けて、地元高校生や小学生にも運営に参加してもらえる体制を作れないか模索中です(未成人は夜間はダメなので、あくまで日中、夕方までですが)。大曲納豆汁による【ご当地グルメで街おこし活動】の全国の先達団体から、沢山の市民や子ども達を巻き込み、街に誇りを持って自ら汗を流せる仲間を作っていくことの大切さを学びました。これからのボランティア育成にも活かしていきたいと思います。